

POCT 対応機器の運用における POC コーディネータの役割

講師：ノバ 直人（国際医療福祉大学熱海病院 検査部）

司会：柴崎 光衛（獨協医科大学越谷病院 臨床検査部）

医療の現場では 1980 年代より患者の傍らでリアルタイムに検査を実施する POCT(point of care testing)が診断や治療に用いられてきた。しかし、POCT の概念や利用目的に明確な基準はなく、測定現場や測定者が個々に理解し利用しているのが現状である。

POCT の目的は医療の質を向上させることであり、患者の傍らでリアルタイムにしかも簡便に検査が実施でき、すぐに結果を知ることができる POCT は現代の医療に必要不可欠となっている。POCT における主となる測定者は、臨床検査技師ではなく医師や看護師などの医療従事者であり、検査データや機器の管理も測定者任せであることが多い。このため POCT コーディネータは必要に迫られて生じてきた役割といえる。なぜなら、「簡単な操作=適当な操作、精度管理不要」などと考える医療従事者も少なくないからである。管理された POCT を利用することで、はじめて医療の質の向上が可能となる。そこで POCT コーディネータの主となる業務は、POCT 対応機器の管理およびそれに基づく検査データの管理と使用者への教育の 2 つとなる。この 2 つは密接に関わっている。すなわち使用者への教育を適切に行うことで機器の管理と検査データの管理につながるからである。

POCT コーディネータが、機器のメンテナンスや機器と検査データの精度保証に関わることで、検査に不慣れながら

も利用する医師や看護師などは安心してそのデータを診療に用いることができる。アメリカにおいて POCT が成功し、診療のなかで大きな役割を担うことになった要因は、POCT コーディネータの活躍による。POCT コーディネータは医師や看護師、メーカーの人たちも取得できるが、業務の担い手としては臨床検査に精通している臨床検査技師が適任である。わが国における POCT の将来は、POCT コーディネータの主力となる臨床検査技師の関わり方次第であろう。

ちなみに海外では POCT コーディネータと呼称するが、日本では testing の「T」を省き、POC コーディネータと呼称する。なぜなら、海外では臨床検査とは検体検査のみを指すことが一般的であるのに対し、日本では心電図検査など生理機能検査も臨床検査の範疇となっていることに加え、検査が目的ではなく、検査後の care までをコーディネートできるスタッフという目的があるからである。

本年 4 月に厚生労働省医政局より「検体測定室に関するガイドライン」が示された。これにより病院や診療所に行かなくとも街中で自らの健康状態を知ることができる検査が実施可能となった。当然のことながら検体測定は POCT 対応機器・試薬を用いた検査が想定される。POCT の利用拡大においては検査データの信頼性の確立が重要である。したがって検体測定室にも POCT コーディネータの関与が望まれる。